

「デジタルツールを活用した自治会活動」のモデル事業アンケート結果

全体

対象者：北迫町自治会及び音戸町早瀬区の会長，役員，その他自治会員 82 世帯

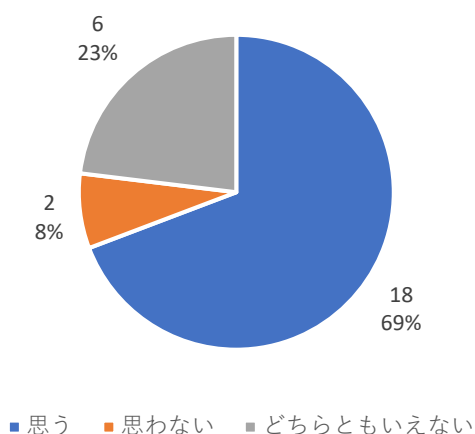
調査期間：令和 5 年 4 月 6 日～4 月 17 日

回答者：26 世帯

回答率：約 32% グラフ中の数値単位は「世帯」

○有効性・効果について

自治会役員の負担軽減に繋がるツールだと思いますか。



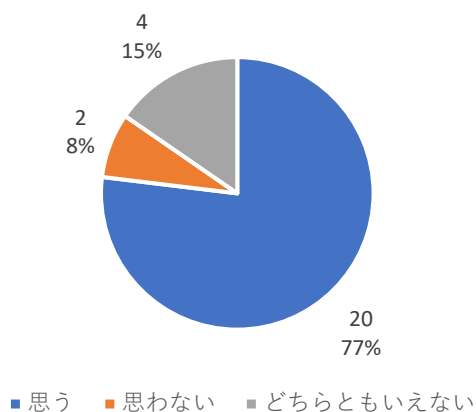
負担軽減に繋がるツールだと思いう意見が7割程度ある一方で，管理者の負担について懸念の声もあり，どちらとも言えない意見が2割程度ある。

思う理由：分類・配布の手間が省ける。連絡漏れ防止になる。連絡が一度で済む。

思わない理由：やることは変わらないため。

どちらとも言えない理由：管理者の負担が多いため。

自治会活動において情報提供などに役立つツールだと思いますか。

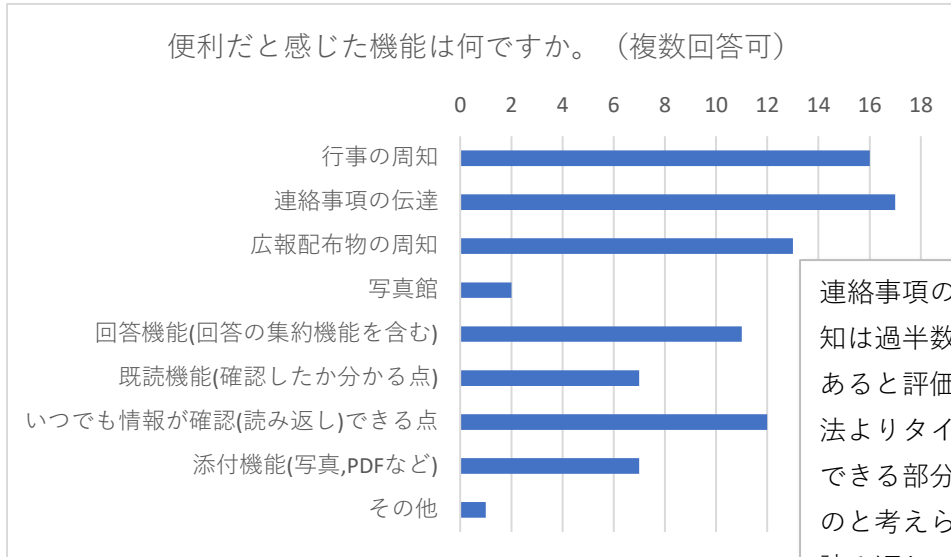


役立つとの意見が8割程度であり，役立つツールであると認められる。

思う理由：タイムロスが少ないため。いつでも再確認できるため。

思わない理由：－

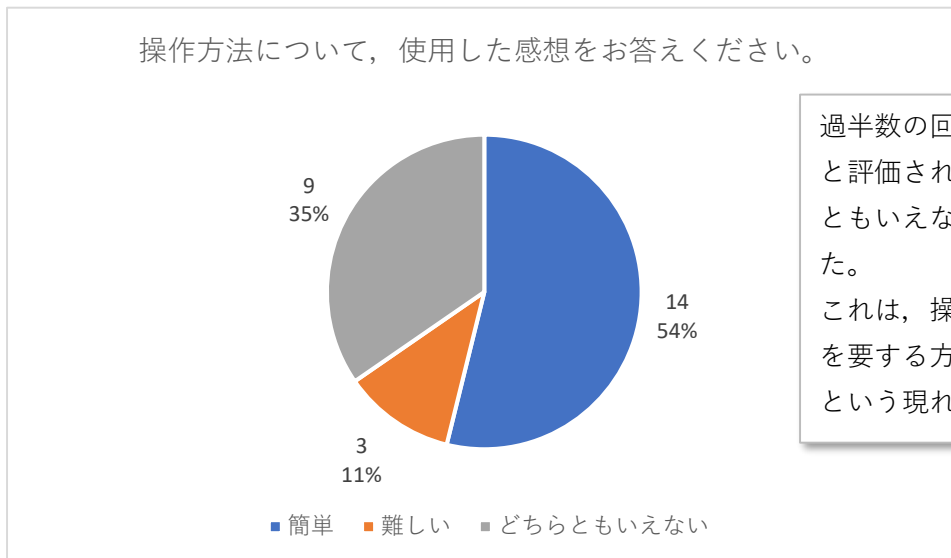
どちらとも言えない理由：自治会活動そのものが少ない。まだ情報量が少ないため。



連絡事項の伝達、行事の周知は過半数の回答で便利であると評価された。従来手法よりタイムロスなく伝達できる部分が評価されたものと考えられる。読み返しできる点についても、従来手法にはないメリットで、多くの方に評価されている。

その他：ゴミ出しマナーなどの共有

○操作感について



過半数の回答で簡単であると評価された一方、どちらともいえない回答も多かった。これは、操作の慣れに時間を要する方も一定程度いるという現れと考えられる。

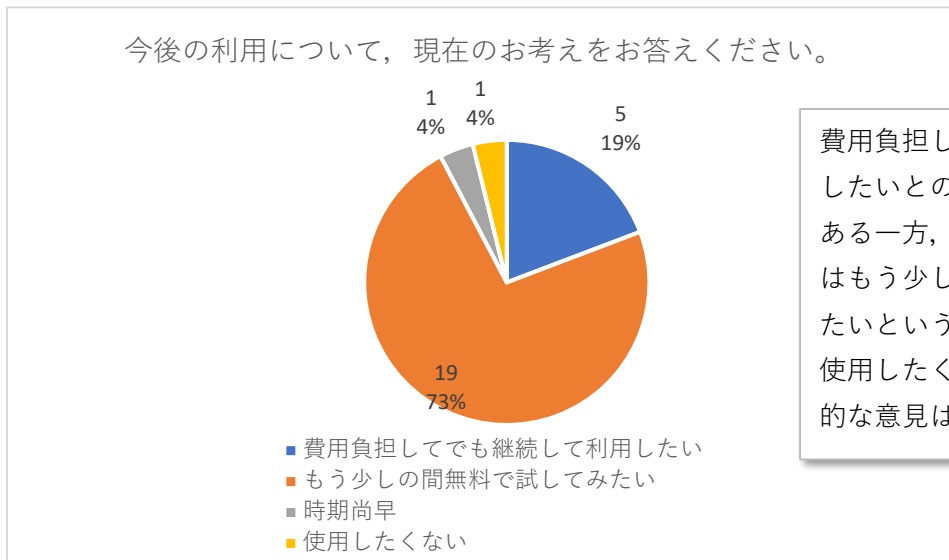
簡単な理由：画面が見やすい。慣れると分かりやすい。LINEが使えるなら使用できる。

難しい理由：既に見たものがどこにあるのか分かりにくい事があるため。

どちらともいえない理由：まだ慣れていないため。一人で分からないことがあった。

改善してもらいたい点：情報が届くまでの時間差

○継続利用意向について



費用負担してでも継続利用したいとの意見が2割程度ある一方、7割を超える方はもう少し無料で試してみたいという意見であった。使用したくないという否定的な意見は1件のみ。

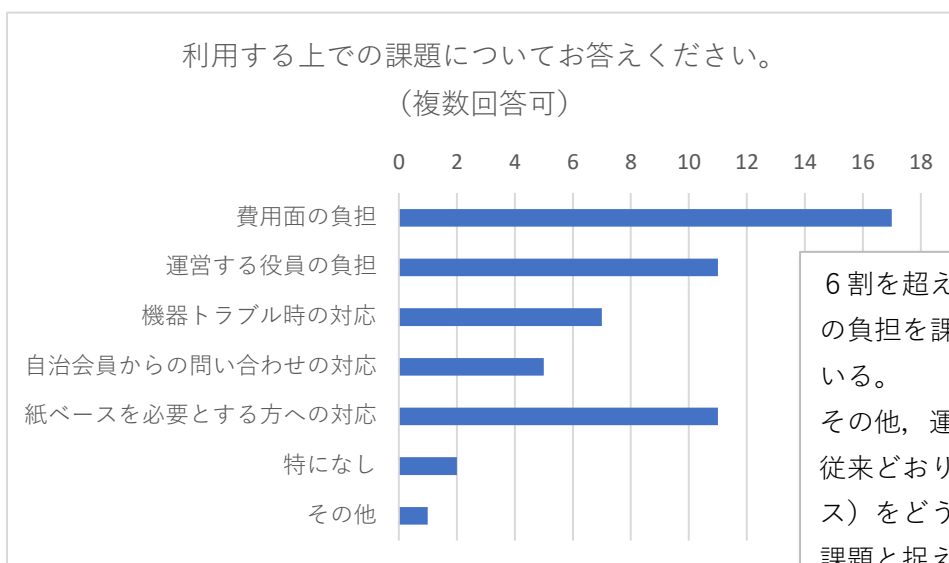
費用負担してでも利用したい理由：－

もう少しの間無料で試してみたい理由：全世帯で試したいため。

時期尚早の理由：－

使用したくない理由：活用する人が少ないのに全員分料金がかかるため。

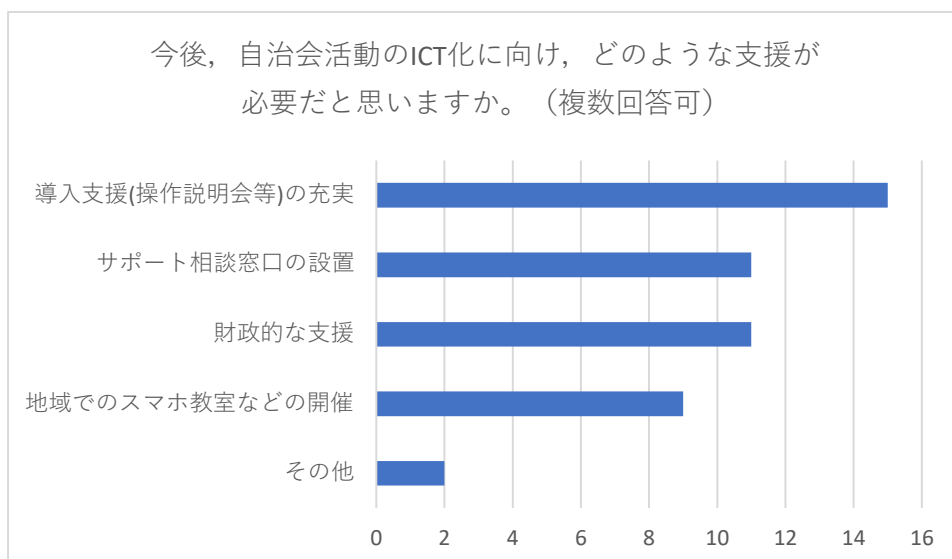
○利用する上での課題



6割を超える方から費用面の負担を課題に挙げられている。その他、運営側の負担感や、従来どおりの対応（紙ベース）をどうしていくか等を課題と捉えられている。

その他の内容：年間いくらかかるか考えるとムダ

○取組を広げていくためにどのような支援が必要と思うか。



その他の内容：あと10年後だと思う

■アンケート総括

1 アンケート結果に対する所感

◇まだ操作に慣れていないことが、有効性、操作感に対する回答において「どちらともいえない」を選択したことに繋がったと考えられる。

◇利用する上での課題で一番多く挙げた「将来的に費用負担が発生すること」は、費用負担を上回るメリットを実感することがまだできていないことが一つの原因と推察される。

これも、操作に慣れ、継続して使用してみることにより、メリットが明確になり、費用対効果が具体的に検討できるようになると考えられる。

◇さらに、利用する世帯数が増えるほど基本料金や利用単価が下がってくる料金体系となっており、実証実験期間に世帯数が増加していけば、自治会を感じるハードルは下がってくると見込まれる。

2 アンケート結果を踏まえた今後の方向性

◇令和5年度の実証実験を継続するとともに、求められている支援にも挙げられている操作説明会等の充実を図ることで、多くの方が操作に慣れ、自治会内、さらには他自治会へ活用が波及され、将来的な自立的運用に繋げることができると考えられる。

◇利便性が高いことは評価される一方で、運営側の負担感についての声もあり、行政から発する文書のデータ化など、負担軽減手法についても導入検討する姿勢が必要である。

なお、紙媒体での回覧との併存方法については、各自治会における普及状況や、従来手法の状況により異なるものと考えられる。